

## 中学校部会公開授業・授業研究会 質疑応答

〈公開授業 1〉

熊本市立鹿南中学校 3年 単元名 陸上競技「ハードル走」

熊本市立鹿南中学校 教諭 一安 晋太郎

### 【 授業者自評 】

目的を持ちながら体育の授業を工夫しながら行なっている。今日はその一端部分を皆様に紹介させていただいた。皆様からのご指摘を受けながら新しい学びができればと思っている。今回の授業では受付でお配りした指導意図と言うプリントを配布した。毎回研究授業の折り、こういうのがあったらいいのではないか思っており、指導案の中には現れない、いろんな教具も意図があって配置されている。その辺りの細かな部分を指導意図プリントに書いた。何か細かい部分がありましたらこのプリントをご覧くださいご理解いただければと思う。今日の50分の授業では分かりづらい部分があったと思うが、今度の新学習指導要領に向けて自分の中で、「メタ認知」いわゆる思考力をどのように鍛える体育の授業を展開するかを自分なりに研究をしてくれているので、理論的な部分を説明させていただく。2013年に21世紀型能力と言うのが文部科学省からされているが、この中核に思考力というのがある。その中にメタ認知という言葉が出てくる。もう一人の自分を形作っていくことで、もう一人の自分が自分のどこができていて、どこができていないかを把握した上で目標に向けて頑張らないといけない。子ども達がここを理解できていないと目標に到達しないので、授業の中でこの力を鍛えていく必要があるという考えが根底にある。そこで、着目したのが自己評価表である。毎時間、これを用いて授業を行なっている。メタ認知という思考力が高まると最終的には学習成績が高まる。まだまだ、メタ認知の研究は進んでおらず、サンプルも少ない。熊本大学の坂下教授の研究によると、命令スタイル一斉授業では学習者の主体性が下がっていく。逆にICTを活用したハードル走の授業ではメタ認知も高まり成績も向上したという研究もある。授業のオリエンテーションでは「考える」ということを強調しており、どんな子どもでも考えて自分の現状がわかって目標に向かう階段が見えたら、必ず「できる・分かった」が誘発できると考えている。だから、子ども達にはできなかつたら考えなさいということを強調している。今日の授業では、自己評価表を確認して、言葉と文字でイメージを持たせる。今日は子ども達が思考しやすいように、意図的に師範を行なった。課題の確認をして、課題練習を二つ設けて試しにやってみようというシンプルな授業だったと思う。生徒の緊張を和らげるために、ゲーム性のあるドリルを入れた。文科省から出ている学習指導要領に書かれている中から、洗い出しをして4観点に盛り込んでいる。また、全単元同様に自己評価表を作成している。技能面に関しては抽象的な表現になっているので、具体的な評価基準を作成している。子ども達がポイント・コツを共有する活動を行なっている。専門的な知識がなくてもポイントやコツは各自の感覚であるため授業中に伝え合うことができる。「できたらわかるのか」、「わかったらできるのか」という議論がなされてきているが、自分の考えとしては「わかたらできる」といことを子ども達には話している。自己評価表を用いて授業することによって、メタ認知が高まりできたという実感も高まり、関心意欲も誘発され良いスパイラルができています。関心意欲が高まることによって、難しいことへもチャレンジすることにつながっている。使う道具や安全面の確保など熊本での研究会の中でもご意見をいただいている。これらを踏まえてご意見を頂けたらと思う。

### 【 質疑応答 】

＜宮崎県宮崎西中学校 外菌先生＞

- Q 今回は3年生の授業でしたが、2年次の10時間はどのようにされたのか？どの程度まで技能の高まりがあったのか、また、その評価は？
- A 1・2年生用の学習カードがあり、それに沿って行なっている。もっとシンプルに授業を行なっている。3年次の前半は復習を兼ねながら、3年生の学習目標が達成できるように繋げている。

Q 今日の目標について、個人の課題か全体の課題なのか、また、今後の展開についての質問。

A 思考判断について、自己評価表の中にも記載があるが、課題を全体で共有しながら、その中から個人の課題を書くようになっていた。実際の評価は、生徒が記入したワークシートを活用しながら評価をしていく。

<熊本県西合志南中学校 米良先生>

Q ハードル前にいろんなものを置かれていたが、どんな意図があるのか？

A ものの違いについての意図はなく、学校で使えそうなものを使っている。積み重ねたり、形を変えることができるので使っているものもある。踏切を遠くから跳ばせるために邪魔をするものとして利用している。利用目的を学ばせて、生徒が個人の課題に応じて変えることができる利点がある。

Q リズムドリルで、全員が3歩で跳んでいたが、新学習指導要領では3歩または5歩で跳ぶことになるが、歩数についての手立てはどのように考えられているのか？

A 基本は3歩で行きなさいと言っている。それで跳ぶことができるインターバルを選ぶように指導している。右利きもいるが全員左足で跳びなさいと固定している。場の設定の変更などが出てくるので、一斉指導ができるようにあえて左踏切に統一して授業を行なっている。よって、5歩になることはない。

<熊本県相良中学校 吉村先生>

Q 本日は体育館でハードルの授業をされたのだが、運動場で行うときはどのような形でハードルの授業を展開するのか？

A 基本的にハードルの授業は体育館で行なっている。仮に、50m ハードルを行なったとき、授業の初回と最終回でのタイムの伸びはハードリングが高まって短縮できたのか。それともハードリングの技術が向上してタイムが短縮できたのかの疑問がある。評価規準ではタイムの伸びでなくハードリングの技術向上が目的になっているので、外で行うハードル走は考えていない。安方指導主事 事前研で議論をしたが、色々な切り口があってもいいのではないかという意見になった。提案授業ということでお考えください。

<熊本県 あさぎり中学校 岩崎先生>

Q 理論的な研究をしながら、授業を展開されていることがよくわかった。自己評価表では評価規準がそのまま具体の評価項目になっている所とそうでないところがある。また、指導案の本時の目標と授業課題や評価についても言葉が違っているが、これらが意図していることを説明していただきたい。

A 学習指導要領に示されている評価規準で具体性に欠けるので、自分なりに解釈して具体の評価基準を作成している。子供達のためには自己評価表に記載しているものになり、「膝を素早くたたんでいくこと」が今回の子ども達のためでした。評価に関してはまだまだ研究を重ねていかなければならないと感じている。

## 中学校部会公開授業・授業研究会 指導助言

松橋中学校 校長 中島仙一郎

鹿南中の生徒の様子を見られて、どのように感じられたか。先週の金曜日に鹿南中に初めて訪れたが、子供たちが爽やかで澁刺としていた。学校を離れて、別の学校が会場ということで緊張もしたのだろうがよく頑張った。授業に対する意欲・関心・態度が素晴らしかった。昨日の本村先生の講話の中でも、今回の学習指導要領の中から意欲という言葉は消えたというお話があったが、今日の授業を見ていても私は意欲が大切だと感じた。先週、学校へ訪問したおりも、生徒が親切に対応してくれたり、掃除に取り組む姿も素晴らしかった。事前に行われる授業を見に行ったが、その時もホワイトボードに今日の授業のめあてが書かれていた。その中で特に印象に残っていることが、「授業は自分たちから学ぶもの」と書かれていたことであった。日頃から、主体性のある授業を展開されていることを実感した。一安先生が日頃から理論として、メタ認知にこだわりを持たれているが、昨日の本村先生の話の中にもメタ認知の必要性について話があった。日ごろからの実践の賜物が本日の授業での子ども達の姿であったと思う。3時間目の授業では目標が「学習のルールやマナーを守る中で、仲間の健闘を認め賞賛の声かけをしている」という関心・意欲・態度に関する評価と、「ハードル走に関連して高まる体力の高め方について理解することができる」という知識・理解に関する評価をメインに授業展開がされていた。1時間の授業だけでなく全ての授業で、細かな評価計画がなされている。今日の授業でもホワイトボードの活用がなされていたが、今日の授業展開を生徒がしっかりと理解できるように工夫されていた。一安先生が大切にされている認知ということであると、「知覚・記憶・学習・言語・思考」を授業の中で実践している授業内容であった。毎時間、技能のポイントやコツについて丁寧に指導されている。私が今日の授業を受けていてもワクワク感があるものであった。全学年の学習指導要領を読み込まれており、全ての内容を抑えられている。指導案にも目標を明確にし、理論をもとに実践されていることを感じた。メタ認知について研究をされ、その有効性についても検証ができたと聞いており、それが指導理念となっていることを感じた。指導に当たっては本時の課題を明確であり、授業の中でも生徒達が気づきやアドバイスなど自発的にしており、支持的な雰囲気が出ていた。これは、日頃の学級活動や道徳の授業などを通じて培われていることだと感じた。言語活動は目的でなく、手段としての活動がなされていた。技能面では量よりも質を重視されていたが、適切な運動量も確保されていた。前回授業を見たときよりも教えている量は少なくなっており、子ども達が主体的に考えて活動していた。単元の中で、初めの段階は教えることも多いが、徐々に主体的な活動ができるように指導されていた。教師が多くの視点を与え、教材の工夫も良かった。場の設定は興味を沸かせるとても大切なことだと感じた。コーン・マット・踏み切り板など、初めは不思議に思ったがやっていることが間違いでなく、フォームをおさえて適切な指導につながったことが素晴らしかった。授業のまとめでは、生徒は真剣に自己評価表へ記入していた。ペアで意見交換をしながら、学んだことを全体の場で発表していることや、先生だけがまとめをするわけではなく、生徒も今日の授業のまとめがしっかりできていた。このまとめが次時への課題や、目標が見えてくることにつながっていくと感じた。課題について指導案の中にも書かれていたが、運動能力があまり高くないクラスであることや協働的学習場面で自分や仲間の課題に対して、的確な練習方法を提案したりアドバイスをしたりすることも課題の一つであるとあった。非常に高い目標を追及されていると感じた。学習指導要領の目標の中にも体力の向上ということが書かれているが、今後どの様に高めていくのか考えていただければと思う。屋外でのハードル走の授業は行なっていないということだが、今後、子ども達から要望があれば、外で走らせても良いのかと思う。新学習指導要領が再来年からの実施となるが、今やっていることは間違いではなく、今やっていることを大切にしながら新しい指導要領を実施していくことが大切である。体育の教師となると部活動に熱中してしまうこともあるが、体育を嫌いになる生徒を減らすことができるように授業で勝負をしていかなければならない。

〈公開授業2〉

熊本市立力合中学校 3年 単元名 体育理論「文化としてのスポーツ」

熊本市立力合中学校 教諭 米田 創一朗

【 授業者自評 】

前時までに国際大会について触れてきたので、本時は「オリンピック・パラリンピック」に焦点を当てた。学習指導案の計画よりも班内活動の時間が少し長くなってしまい、班外活動を外すことになってしまった。学習の展開に個人思考の時間、班内活動、班外活動の時間を設定したのには理由があり、「沢山の知識から新しいものを知る」ということが今後の「生きる力」へと繋がり、大切なことだと思い、積極的に班活動ができる場の工夫をした。また、本時の活動が活発になるように事前に「オリンピック・パラリンピックの〇〇」というテーマのもと調べ学習の課題を出し、生徒がそれぞれの視点で調べてきていたことを授業の中に盛り込んだ。しかし、調べ学習などをしたが、特に「パラリンピック」に対する情報が少なく、どのように情報を集めれば良かったのか、体育の調べ学習の難しさを感じた。また、班外活動の時間を取ることができなかつたので、良い意見が出にくかつた。どのように資料を集めたりすれば良いのか、手立てや工夫などもぜひ多くの先生方に教えていただきたいと思う。

【 質疑応答 】

〈熊本県 三原アドバイザー〉

- Q 声の張りも良く、自分が生徒なら聞き応えがあり、話し方も良かった。しかし、生徒が大人すぎて手の挙げ方なども気になった。質問ですが、オリンピック・パラリンピックのメリット（好影響）を述べた後、デメリット（悪影響）を提示した意図は何か。また、生徒の調べ学習に対し、生徒がどんなことを調べてきたかを聞くのではなく、なぜVTR（動画）を見せたのか。
- A まず課題を出させ、事前に集約をした。オリンピックやパラリンピックのデメリットでもある「テロ」、「病気の問題」、「建物のその後」が生徒の課題に触れられていなかったもので、こちらから提示した。

〈大分県挾間中 中野先生〉

- Q 導入の東京オリンピックの画像が良かった。しかし、「世界平和」、「国際親善」を最初に教師側が提示し、「なぜ開催があるのか？」と投げかけたが、最初に答えが出ているのではないか。また、「オリンピック、パラリンピック」の開催が必要・不必要の解答が必要だったのか。もし「不必要」に対し重要な意見が出た時にどうまとめたのか。
- A なぜ開催されるのかの答えがすぐに出てくると思っていた。本時においてはメダルの獲得や勝敗が大事ではないという視点を大事にした。また、教科書ですぐに開催の意義が分かるのではなく、「開催が本当に必要なのか」というたくさんの揺さぶりをを行い、まとめたかった。
- A（事前の授業者 熊本市立西原中学校 原先生より）

事前研では「世界平和」や「国際親善」といったキーワードがすぐに出た。だから、メリットをおさえて、あえて批判的な発問から子どもの思考を再構築させたいと思った。沢山の視点を与えるために「必要・不必要」の発問を入れた。また、開催に対してのマイナスな意見が多かった場合は、その分野は高校の単元であるので深く触れないように考えていた。

- A 不必要という意見に対しては参加国や人数が増えているというメリットの方が大きかったという点を伝えようと考えていた。そして、最後は教科書で「大事なところ」をまとめたかった。

〈熊本県桜木中学校 中川先生〉

- Q 宿題にどんなことを書いていたのか。そこを深く掘り下げることで意味があったのではないか。宿題の中に「パラリンピック」という言葉は無かつたのか？
- A パラリンピックについて触れた生徒はいなかつた。視覚的な資料にもあまり無かつた。資料不足だったためこの形で勧めた。

〈熊本県有明中学校 金子先生〉

Q 事前学習（宿題）での調べ方はどのような提示だったのか。

A 「オリンピック・パラリンピックでの〇〇」という提示か、「自由に調べる」の2パターンを考えた。しかし、沢山の視野から知識を得て、考えさせたいと思い、キーワードを与えて操作せずに自由なところから広げたいと思った。あまりにも悪影響な点は不可と伝えていた。

〈宮崎県高鍋中学校 黒木先生〉

自分ならどうするのか考えていた。「対話的」という言葉がテーマにあるのならもっと時間があった方が良かった。また、最初のオリンピック動画が長過ぎた気がする。導入で「これなんのビデオだと思う？」から入り、「もしあなたがオリンピック選手ならどんな気持ちで臨む？」や、「もし、オリンピックがなかったらこの3つ（世界平和・国際親善・国際理解）はどうなる？」という聴き方にしたと思う。

〈熊本県西原中学校 志賀先生〉

「なぜ開催されるのか」ではなく、「魅力は何だろうか」にしたら様々な意見が聞けたと思う。また、批判的な質問ではなく、「東京オリンピックでの課題はないかな？」と魅力と課題を照らし合わせて「これでも開催に向けて頑張っているのは何でだろうか？」という肯定的にすればもっと肯定的な発言が聞かれたのではないのか

〈宮崎県小林中学校 水野先生〉

研究主題に「対話的」という言葉が入っており、もっと活性化していければ良いと感じた。「オリンピックの良さ」が最初に提示され、「必要・不必要」のディベートでも良かった。また、オリンピックに限らなくても良く、地元開催になるからこそハンドボールやラグビーでも良かったかもしれない。

〈熊本県清和中学校 武田先生〉

Q 評価が知識理解であるが、生徒のワークシートのどの部分で評価するのだろうか？

A 今日こんなことを学んだという具体的なキーワードや、まとめの感想を見て、「自分の言葉で自分の気持ち」を表現できているかを評価する。

〈熊本県御船中学校 倉岡先生〉

Q みんながしやすい内容の授業だったと思う。しかし、あえて不必要を選んだという生徒がいた。班外交流とは具体的にはどうするのか。この授業を終えて、指導案にあった「ラグビーやハンドボールを見に行きたい」という生徒が増えたらと感じた。

A 班外交流とは、前4班、後5班などの場合は班内で人数をふり、同じ番号が集まって班を再構築する。更に多くの人と関わり意見を交わすことで考えを深めるために行う。

## 中学校部会公開授業・授業研究会 指導助言

熊本市立龍田中学校 校長 大園隆明

米田先生は指導者として貴重な体験をしたと思う。教師も生徒もすごく緊張していたが、生徒との深い信頼関係が見られた授業であった。この「体育理論」という単元は体づくり運動と共に前回の学習指導要領の改訂で導入され、今後の保健体育の授業の時数の確保にとっても生き残りをかけた単元であり、しっかりと結果を残さないといけない。そして、保健体育の授業では「する・見る・支える・知る」ことがすばらしいことだと思わせないといけない。だからこそ、「体育の授業は大事だ」と思わせないといけない

新学習指導要領では「主体的で対話的で深い学び」というテーマがあり、そのことを授業では大事にする必要がある。今まで取り組んできた先輩方の取り組みを更に上乗せしていかなければならない。また、本授業でも行っていたが、授業ではあえてエラーを起こさせる。あえて起こすことで、子ども同士で解決していくことが大事である。

次に評価についてですが、このことが大切である。まずは生徒をB基準に引き上げること。そして、C基準で手立てが必要な生徒をチェックし、B基準に持っていく。次にB基準の生徒をA基準までにしていく。したがってどの生徒がC基準で手立てが必要なのかをしっかりと理解する必要がある。

授業研究会ではたくさんの意見や質問が出たが、私が感じたのは『オリンピック、パラリンピックの「魅力」「課題」』にすることでもっと良い意見がでたり、内容になったのではないだろうか。また、UDの視点があり、授業展開として「今ここだ」という視点があり、分かりやすかった。

また、わざと揺さぶりの発問をした後に「どんな言葉がでたら良いのだろうか」と教師側が想定し、生徒自身の言葉で具体的に答えるということが大切である。現在、スポーツという文化が「私たちの社会を支えている」ことは間違いない。したがって言葉や人種を超え、全世界の人々が心を一つにして、という言葉が最後にできるような授業になってほしい。

最後に今回授業をしていただいた米田教諭は先日行われた県駅伝をはじめ、部活動のバスケットや生徒指導でも学校の中心的になる大事な存在となっています。先生に大変感謝しています。